

滋賀の縁創造実践センターの 目標と実践について



平成27年10月

滋賀の縁創造実践センター

(事務局:滋賀県社会福祉協議会)

滋賀の縁創造実践センター設立の趣意

～「おめでとう」から「ありがとう」まで、一人ひとりだれもが大事にされる福祉滋賀～

- 糸賀一雄生誕100年の年、平成26年9月に設立。5年間のプロジェクト
- 「縁」は、制度のはざまの困りごとを放っておかない姿勢で実践をつくっていく集まり。必要と思ったことはモデル事業として制度の枠にとらわれず企画立案し、普遍化のために行政の後押しも得ながら活動を進めていく。
- 滋賀県内の民間福祉関係者が、高齢者、障害者、保育、児童、医療という分野を越え、また支援者や当事者という立場を越えて参加 → 県内の社会福祉法人の約7割が会員として参加

制度ごとのバラバラの支援ではなく、困りごとを抱えた人と家族を真ん中において、支援者同士が良い協力をしよう。
制度がないからとあきらめず、少しずつでも力を出し合って困っている人を支えよう。
そのために必要な事業費も、会員が出し合った。
「一人の不幸も見逃さない」「気づいたものが実践する」が縁の基本姿勢である。

滋賀の縁創造実践センターの会員の状況

(平成27年9月1日現在)

1 会員数

(1) 団体会員数 19

(2) 法人会員数 192 ※法人会員には、団体の会員法人(民間)をすべて含んでいます。

(3) 個人会員 12人

(4) 賛助会員 5

2 基金造成額(平成27年3月31日現在) 96,917,628円

団体会員一覧

県老人福祉施設協議会	県手をつなぐ育成会	県民生委員児童委員協議会連合会
県保育協議会	県身体障害者福祉協会	県障害者自立支援協議会
県児童福祉入所施設協議会	県視覚障害者福祉協会	県市町社会福祉協議会会長会
県社会福祉士会	県母子福祉のぞみ会	県社会福祉法人経営者協議会
県介護福祉士会	県里親連合会	県介護サービス事業者協議会連合会
県介護支援専門員連絡協議会	県老人クラブ連合会	県民間社会福祉事業職員共済会
医療福祉・在宅看取りの地域創造会議		

滋賀の縁創造実践センター設立までの歩み

- 平成16年度
平成22年度 県予算対策委員会を廃止し、地域福祉施策検討委員会を設置
地域福祉施策検討委員会から県に提言
「滋賀の福祉力を高め、安心と共生の湖国をつくる提言」
- 平成25年10月 委員会から県知事・県議会に、「誕生前(おめでとう)から看取り(ありがとう)まで、地域で暮らすことを支えるしくみづくりと実践」の提案書を提出
- 平成26年
- 2月 3日 委員会において設立に向けた取り組みを協議
 - ・12団体が設立発起人となる。
 - 2月13日 設立趣意書による会員への参画呼びかけ開始
 - 3月10日 設立発起人会
 - 4月 9日 設立準備会総会(54名参加)
 - ・4月16日 県と準備会が公私協働連携協定締結
 - 5月23日 設立準備会 第1回理事会
 - 9月 1日 滋賀の縁創造実践センター設立
 - 9月 8日 センターと知事(7月に着任)との懇談会
 - 11月10日 県とセンターが公私協働連携協定締結

“おめでとうから ありがとうまで ” 公私協働の福祉しが 連携協定

平成26年4月16日締結(準備会)、平成26年11月10日締結(設立後)

連携事項

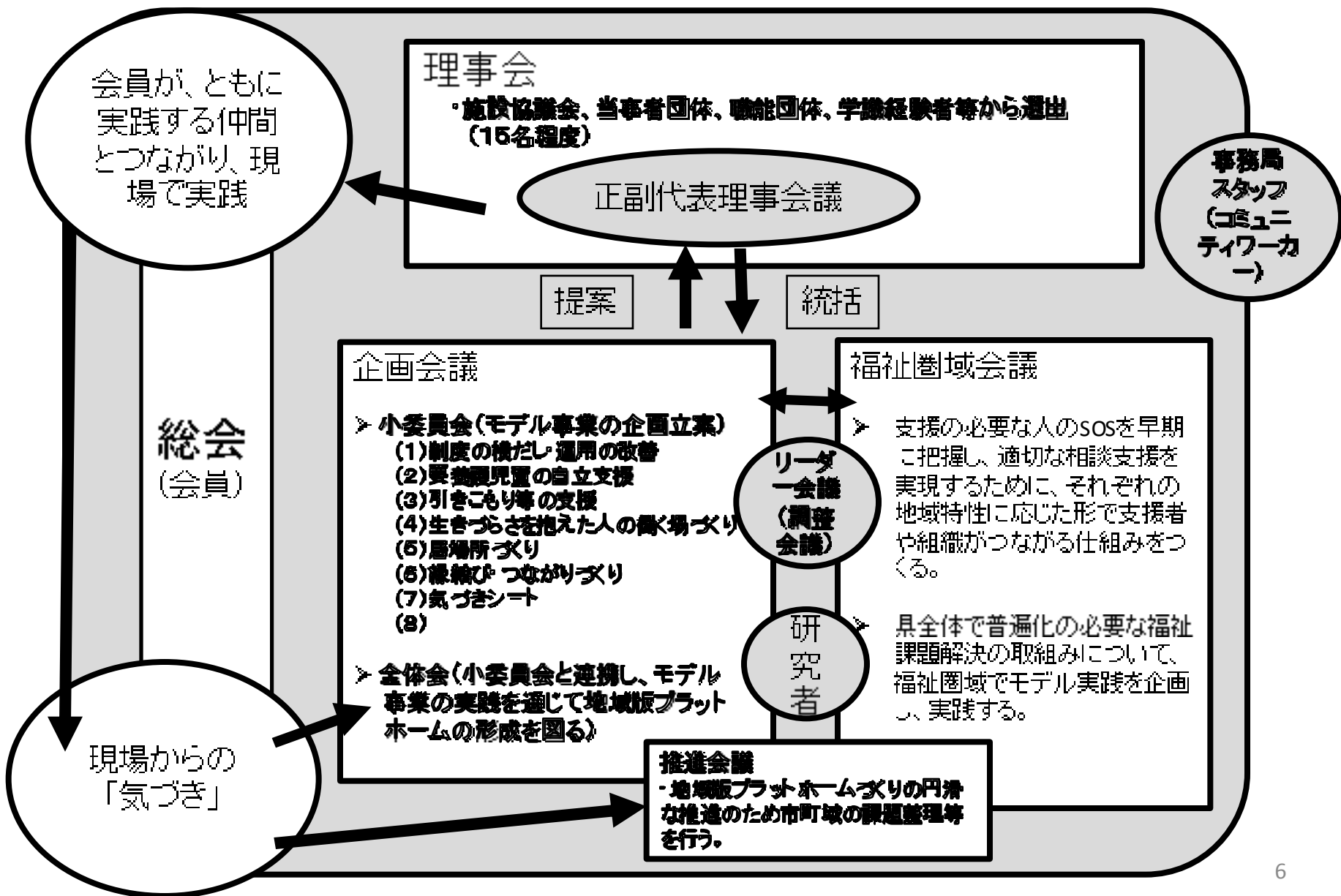
- ①縁センターが設置する企画会議への県関係職員の参画
- ②トータルサポートのためのプラットフォームづくり
- ③様々な福祉課題を持つ世帯を包括的、継続的に支援する取組み
- ④様々な縁を紡ぎなおし、地域で暮らすことを支える仕組みづくり
- ⑤トータルサポートを暮らしの場で実感できる居場所づくりを県民運動としてひろげていくための活動
- ⑥制度の狭間や制度外にあるサービスの制度化・普遍化に向けた協議
- ⑦制度の充実に向けた協議

2 県と縁センターは、現場の実践から明らかになった福祉課題の共有と課題解決に向けての意見交換会を原則として年2回実施する。

3 県は縁センターの円滑な事業実施および運営の基盤づくりに対する全庁横断的支援に努めるものとする



滋賀の縁創造実践センターの組織・実践の体制



滋賀の縁創造実践センターの5年間の目標

- ① 縁・共生の場づくり（300か所）**
 - ・だれもが集える居場所、同じ課題を持つ人が集まる居場所
 - ・県内各地のよい実践事例を共有し、社会的孤立をつくらない取り組みをひろげていきます。
- ② 課題解決のためのネットワークづくり（15か所）**
 - ・県民の暮らしに関わる多職種が必要に応じてチームをつくり、それぞれの役割を発揮したチーム支援ができる関係づくりを促進します。
 - ・滋賀の縁塾や、福祉圏域での会員交流会をしています。
- ③ 制度のはざまとなっている課題解決のためのモデル事業（15事業）**
 - ・問題から見て何が必要かを考え、まずはモデル事業として実践しながら新たな支援策の提案につなげます。
- ④ 国や県、市町への施策提案（20の提案）**
 - ・縁センターの活動から明確になった福祉課題について、実践を踏まえた施策提案を行います。
- ⑤ 新たに福祉のボランティア体験をする人（1万人）**
 - ・高齢者施設、保育園、障害者施設等の社会福祉施設が福祉ボランティアの体験講座を企画して、社会人や学生を受け入れます。多くの県民が福祉のことにふれる機会を増やし、助け合いの県民性を高めようという取り組みです。

滋賀の縁創造実践センター 平成27年度事業計画

1. 地域ぐるみのプラットフォームづくり

(1) リーディングプロジェクト

- 「滋賀の“縁”」認証事業
- 「遊べる学べる淡海子ども食堂」推進事業

(2) 課題解決のためのネットワークづくり

(滋賀県社会福祉士会、研究者との協働事業)

- 地域(福祉圏域等)での支援者交流会
- 滋賀の縁塾(多職種連携のチーム作りを学ぶ場を福祉圏域ごとに開催)

(3) 会員の拡大

2. 制度だけで対応できない福祉課題解決のためのモデル事業の企画と実施

(1) 福祉施設を活用した、不登校等しんどさを抱える子どもの居場所「フリースペース」

(2) 要養護児童の自立支援(自立への土台づくり事業)

(3) ひきこもりの人と家族の支援

(4) 生きづらさを抱える人の働く場づくり

(5) 医療ケアの必要な重度障害者の入浴支援事業

(6) 育成会とともに家族支援すすめるプロジェクト

(7) 若年認知症および軽度認知症の人の「ケアとしての働く場」づくり

3. 国、県、市町への施策提案

(1) 協定にもとづく知事との懇談会

(2) 実践を通して得られたことを根拠に施策提案

4. 縁・支えあいの県民運動

(1) 県、市町ボランティアセンターとの共同による「福祉施設で福祉ボランティア体験事業」

(2) 縁ピンバッジの普及による県民運動(縁づくり)

5. 広報活動、縁結び事業

(1) えにし通信、ニュースレター、ホームページやフェイスブックでの広報など

(2) 滋賀の福祉職場を元気にする取り組み

- 男女の縁結び

- ふく・薬・cafe～縁～ 福祉を学ぶ学生と縁会員の語り場



1. 縁・共生の場づくり

①縁認証事業

②遊べる・学べる淡海子ども食堂

滋賀の縁 認証事業(県と、縁センター、県社協の三者による事業)

トータルサポートを暮らしの場で実感できる共生の場をつくり、一人ひとりを大事にする活動をされている団体等を「滋賀の“縁”」として認証することにより、こうした取り組みを浮かびあがらせ、県民運動としてひろげていくことを目的に、認証事業をはじめました。

推薦(自薦・他薦)

認証委員会で審議
(定期開催)

認証書の交付
県ホームページ等に掲載

認証の対象となる活動は・・・次の3つをすべて満たした活動です。推薦をお待ちしています。

- ①高齢者、子ども、障害者等だれもが集い、憩い、ふれあう場である
- ②高齢者、子ども、障害者をはじめ、地域住民の暮らしの困りごとに多様なサポートをしている
- ③これらの取り組みを広報し、だれもが気軽に相談できる体制を整えている

高島市の各住民福祉協議会が運営する地区ボランティアセンター
(安三川、今津、マキノ、朽木、新旭、高島)
「わが町」への思いを共有する住民がつくる居場所



もの忘れカフェの「仕事の間」
若年認知症や障害等の課題を共有する
当事者と支援者がつくる居場所



真盛園地域交流センター 老いも若きも
制度にとらわれない福祉への思いをもつ社会福祉法人が住民とともにつくる居場所



認証書

認証第 号



にし
滋賀の縁

認証書

様

貴活動は一人ひとりを大事にする
「福祉しが」の思想と実践を未来に
つなぐ取り組みです

ここに縁・共生の場として認証します

平成 年 月 日

滋賀県知事 三日月 大造



滋賀の縁推進実践センター 代表理事 前阪 良盛

日本福祉社会福祉協議会 会長 渡邊 光春

認証プレート

一人ひとり大事にする「福祉しが」を
未来につなぐ縁・共生の場



滋賀県・滋賀の縁推進実践センター・NPO等NPO・滋賀県社会福祉協議会



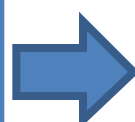
「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業



- 「どの子ども幸せに育ててほしい」 こんな気持ちでつくる垣根のない居場所
- さびしさやしんどさを抱える子どもが、心の底から喜び、笑顔になれる場所
- 地域の人々、地域の関係者の思いと工夫でつくる居場所

27年度の目標
14か所

- 「ごはん」は命と心を元気にする最大の要素
- 子どもへの貧困の連鎖を断ち切るためには、自己肯定感やうれしさ、たのしさを体感できる場が重要



地域ぐるみでつくる垣根のない居場所
「淡海子ども食堂」を、県下に草の根のようにひろげていきたい

■食材は？

購入も必要だけど、地域の人や事業所にも協力よびかけてみる…

■調理は？

以前は、給食ボランティアやサロンでごはんを作るの楽しかったなあ…

■食費は？

来てほしいと思う子どもが来れるようにしよう…

■いろいろな人がお手伝いできる
全員参加型の場になるとよいなあ



あたたかい
ごはんが
ある

だんらん
がある

自分のことをか
まってくれる大人
やお兄さん、お
姉さんがいてく
れる

初年度経費を含
む立ち上げ支
援助成

学生(大学生
や高校生)のボ
ランティア等呼
びかけ

■場所は？

集会所、福祉施設、民家等、
子どもたちが徒歩や自転車で
行ける範囲

■運営は？

地域の住民組織、ボランティア
グループ、福祉施設、まちづくりに
かかわる団体など、それぞれのと
ころにあわせたチーム

社会福祉法人買盛園 地域交流センター-若いも若きも
 ~おいわか子ども食堂「おいで屋」~

~おいわか子ども食堂~



7/28 (水) 10時~15時
 8/4 (火) 18時~20時
 8/20 (木) 18時~20時

みんなの笑顔が、この食堂の大きな宝庫です。
 子どもは、お友達と楽しく遊ぶことができます。
 大人は、おしゃべりしながら、美味しいお料理を
 食べながら、おしゃべりしながら、美味しいお料理を
 食べながら、おしゃべりしながら、美味しいお料理を

- 夏休み中に3回開催。今後も定期開催予定
- 会場: 若いも若きも
- 若いも若きも主催
- 特にしんどさを抱える子どもに誘いかけ。学校、児童館、行政と連携
- 子どもや高齢者10名、ボランティア10名
- 250円(子どもは手伝って無料)



NPO法人CASN 晴嵐みんなの食堂

5/10(土) 10:30-13:30
 和光駅前
 18820100

- 7月、8月に1回ずつ開催
- 会場: 商店街のコミュニティスペース
- 商店街、民協、社協、能谷大学ゼミのメンバーで実行委員会
- 生活福祉課、子ども家庭課、スクールソーシャルワーカーらが呼びかけ
- 子ども5名、ボランティア5名
- 無料



社会福祉法人グロー 老人ホームながはま こども食堂



- 8月19日スタート。毎月第3水曜日開催
- 午後4時30分～7時
- 会場:老人ホームながはま 地域交流スペース
- 社会福祉法人グロー主催
- 地域(神田地区)の子ども
- 子ども15名、ボランティア
- 200円(子どもは手伝って無料)



栗東市社協 ゆうあいこどもカレー★食堂



- 8月28日スタート。毎月第4金曜日開催
- 午後6時30分～7時30分
- 会場:ゆうあいの家
- 栗東市社会福祉協議会主催
- 治田西学区に住む子ども、子どもと一緒に保護者
- 申込み不要
- 子ども約60名、スタッフとボランティア15人
- 200円(子どもは手伝って無料)



母子福祉のぞみ会 おおつ子ども食堂のぞみ

おおつ
子ども食堂のぞみ
～みんなで楽しいクッキング～
月 日 ()
～ ～ ～
場 大津市市民センター
所在地 伊根、11番
申込先 伊根
対象者 子どもと保護者
申込み 無料
主催 大津市母子福祉のぞみ会、大津市社会福祉協議会

みんなと一緒に
楽しもう！
みんなで楽しくクッキング！
料理 宿題
ご参加お待ちしております

- 夏休み中は月2回開催。今後は月1回開催の予定
- 会場:大津市平野市民センター
- 大津市母子福祉のぞみ会主催(大津市社協共催)
- ひとり親家庭のこどもを中心に誘い掛け
- 子ども15名、ボランティア5名
- 無料、調理実習方式

地域に子ども食堂をつくろう！！研修会

大阪で「大阪子どもの貧困アクショングループCPAQ」の活動しておられる徳丸ゆき子さんを講師にお願いして、「私たちは何のために、誰のために活動をするのか」を考える大事な機会をもった。

大津市社会福祉協議会のCSW井上由美さんから、市内で先行実施されている子ども食堂について、実践に至った子どもたちへの思いと、社協のワーカーとして何を大事にして行動してきたのかをお聴きした。

地域での暮らしを支え、地域をつくる専門職として、今ちゃんと現実を見ているかが問われている。



地域に **子ども食堂** をつくろう!

～ 子どもたち一人ひとりが大事にされる居場所 ～

遊べる・学べる淡海子ども食堂



どこで、どんなことができるかな?
食堂の作り方は、皆さんの工夫次第!

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は・・・
“**ごはん**”を通じて、子どもと地域が
つながる場をつくることによって、さみしさ
やしんどさを抱える子どもたちを地域で
見守り、育てていく、**地域ぐるみで子ども**
を大事にする**垣根のない居場所**をつくっ
ていく**事業**です!

ごはんを食べたり、宿題をしたり、本を
読んだり、遊びを通して、子どもが大人に
大事にされる場所を、縁センター会員と地
域の方たちの思いと工夫でつくっていきま
しょう!

「うちの地域でやってみよう!」という団体や グループを募集します!

- 実施団体 ⇒ 縁センター会員および会員が推薦した団体
- 活動の支援

- ① 初年度経費等の助成 初年度20万円、2年目、3年目10万円(3年まで)
- ② 運営への助言、支援、学習会等の開催等

【平成27年度分 募集受付期間】

平成27年8月24日(月)～平成27年12月25日(金)

子どもの貧困、孤立…滋賀の子どもの状況

平成24年度の就学援助率

(本県の公立小中学校児童生徒数に占める要保護・準要保護児童生徒数の割合)

12.69% (40人学級1クラスに5人)

ひとり親世帯の貧困率(2014年子育て世帯全国調査)

54.2% (2012年調査では38.4%)

平成26年度の児童虐待相談件数

5,943件

見えにくい貧困

経済的な問題だけが単独であるのではなく、親のさまざまな困難が絡み合っ
て、それが子どもの育ちに大きな影響を及ぼしている。

不幸に悲しむ子どもを見逃さない地域ぐるみの取り組みをすすめよう。

この一年の縁の実践をふまえた県への政策提案 「子どもの笑顔を育むコミュニティづくりをととした豊かな滋賀の創造」

縁センターの問題意識

- 少子化、人口減少社会のなかで、私たちは社会の担い手をどう育てていくのか。
- 「ひとりももれなく、人間として生まれてきた生きがいを感じられるような世の中をつくらねばならない」…この思想を礎として、滋賀の子どもが一人ももれなく笑顔になれるコミュニティづくりを公私協働、全員参加型ですすめていきたい。



**「おめでとう」から「ありがとう」まで、
一人ひとり、だれもが大事にされる地域づくり**



だれもが
集える場

遊べる・学べる淡海子ども食堂
地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所



一人ひとりの課題
に応じた
支援の場

福祉施設を活用した
子どもの居場所
フリースペース



児童養護施設、里親のもとで
暮らす子どもの自立支援
〈自立への土台づくり〉



ひきこもりの人への訪問型支援・
居場所づくり



2. 制度のはざまの困りごとに対する実践 (モデル事業)

- ①福祉施設を活用した、不登校等しんどさを抱える子どもの夜の居場所「フリースペース」**
- ②児童養護施設や里親家庭の子どもの自立支援事業**
- ③制度による支援の対象とならないひきこもりの人と家族の支援事業**
- ④生きづらさを抱える人の働く場づくり(企画段階)**
- ⑤医療ケアを必要とする重度障害者の入浴支援事業**

制度のはざまの困りごとに対する実践(モデル事業)

①福祉施設を活用した、不登校等しんどさを抱える子どもの居場所「フリースペース」

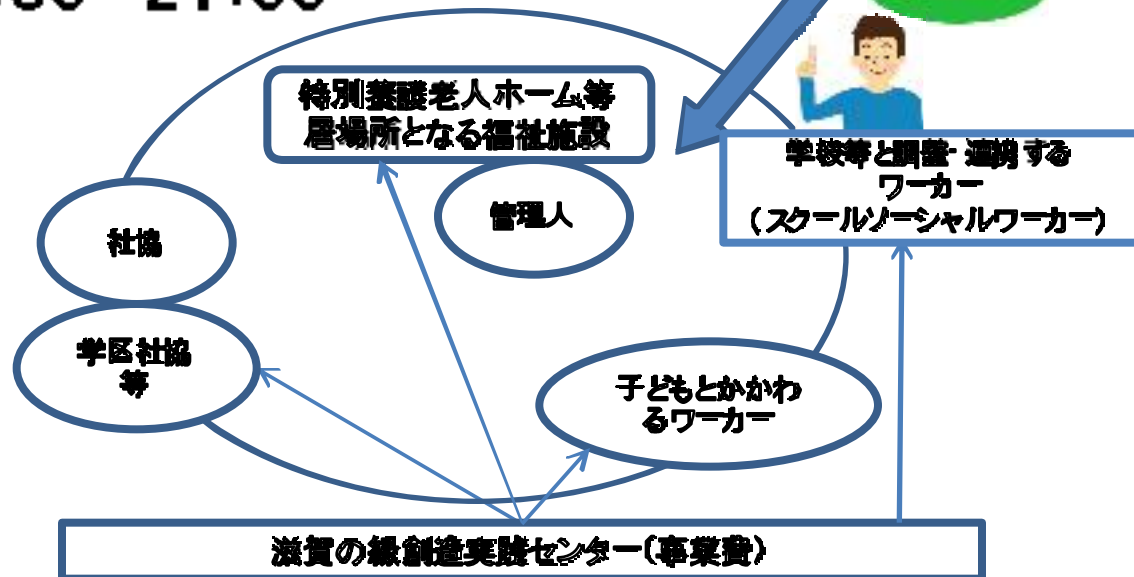
フリースペース 実施体制

- 対象 校区内の小学校高学年から中学生
- 開催日 毎週火曜日の17:30~21:00
- 食事代 100円

スクールソーシャルワーカーが調整役となり、学校や家庭、児童相談室と支援世帯の相談を行い、保護者に利用をすすめる。



社会福祉施設には、24時間必ず人がいる、ご飯がある、お風呂がある。子どもや親を孤立させない・孤立を防ぐために、すでにある地域の資源や人がチームとなり地域の居場所づくりに取り組みます。



フリースペースカーサⅠ（大津市）
特別養護老人ホームカーサ月の輪 地域交流スペース

- ◆2015. 3. 31より毎週火曜日17:30～21:00
- ◆小学校6年生の男の子が継続して参加
- ◆当初未就業の保護者も一緒に参加し、社協の相談窓口を通して就労につながった。
- ◆ボランティアには大学生だけでなく、大津市社協のトワイライトステイでサポートを受けてきた若者が携わっている。

フリースペースかなで（大津市）
小規模多機能事業所 時間の奏

- ◆2015. 7. 31より毎週金曜日17:00～20:00
- ◆小学校2年生男の子、4才の女の子が継続して参加

フリースペースせせらぎ（甲賀市）
特別養護老人ホームせせらぎ苑 ケアハウス棟

- ◆2015. 9. 29より毎週火曜日17:30～20:45
- ◆小学校3年生男の子が参加予定
- ◆施設は、ソーシャルワーカー2名を担当配置

フリースペースカーサⅡ（大津市）
特別養護老人ホームカーサ月の輪 デイスペース

- ◆2015. 5. 26より毎週火曜日17:30～21:00
- ◆中学校2年生、小学校5年生、4年生、2年生、4才の女の子が参加



フリースペースアイリス（大津市）
特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑

- ◆実施体制については調整済み
- ◆スクールソーシャルワーカーが実態把握とつなぐ子どもを学校および市と調整中

制度のはざまの困りごとに対する実践(モデル事業)

② 施設や里親のもとで育つ子どもたちの自立への支援 〈自立への土台づくり事業〉

① 就労体験事業と交流事業

- ・中高生・・・就労体験
- ・小学生・・・社会体験、高齢者施設等との交流

② 企業、事業所との相互理解

- ・企業と福祉支援者との懇談会
- ・啓発パンフレット作成

③ 企業や地域とのネットワークづくり

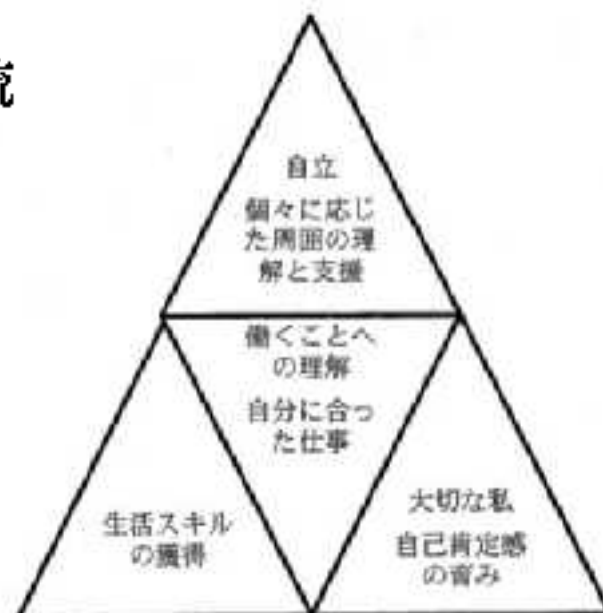
- ・就労体験受入れ協力企業の開拓、登録
- ・子ども、若者支援機関との連携

④ 人材育成

- ・自立支援コーディネーターの育成

⑤ 退所後の孤立防止に向けた取り組み

- ・当事者が選択できる複数の相談窓口、居場所づくり



施設や里親のもとで育つ子どもたちが、働くことに夢や希望をもつために

この夏休みから本格的にはじまった

ハローわくわく仕事体験事業

世の中にはさまざまな仕事があることを知り、生きがいをもって仕事をしている人と出会い、自分なりに「働くことの意味」を感じ取る経験が、彼ら自身の“土台”となります。

滋賀県中小企業家同友会の会員企業・事業所、福祉施設から約60の企業・事業所が受け入れ協力の登録をしてくださった。子ども自身、施設職員、企業、みなそれぞれよい経験ができたという感想が集まった。

就労体験事例

- H26年度の12月(冬休み)、中学1年生の就労体験が実現し、子どもの表情、頑張る気持ちに励まされ、本格実施となった。
- この夏休み、10人の中学生、高校生が、自分で選んだ会社で複数回、仕事を体験した。

3日間の就労体験を受けてくださり、ありがとうございました。

はじめはどんなお仕事をするのかわからなくて緊張しましたが、気にかけて話しかけてくださり、うれしく感じました。

一番心に残っている事は、平川社長の話です。社会に出るのはもう少し先のことですが、今回の体験を通して自分の将来について考えていこうと思います。

(運送会社で体験した高1男子のお礼の言葉)

子どものうれしい表情、施設での生活の中では見えなかった力の発見、企業の方たちの心温まる対応に、このモデル事業に取り組んだチームには継続して取り組もうという意欲が湧いている。



制度のはざまの困りごとに対する実践(モデル事業)

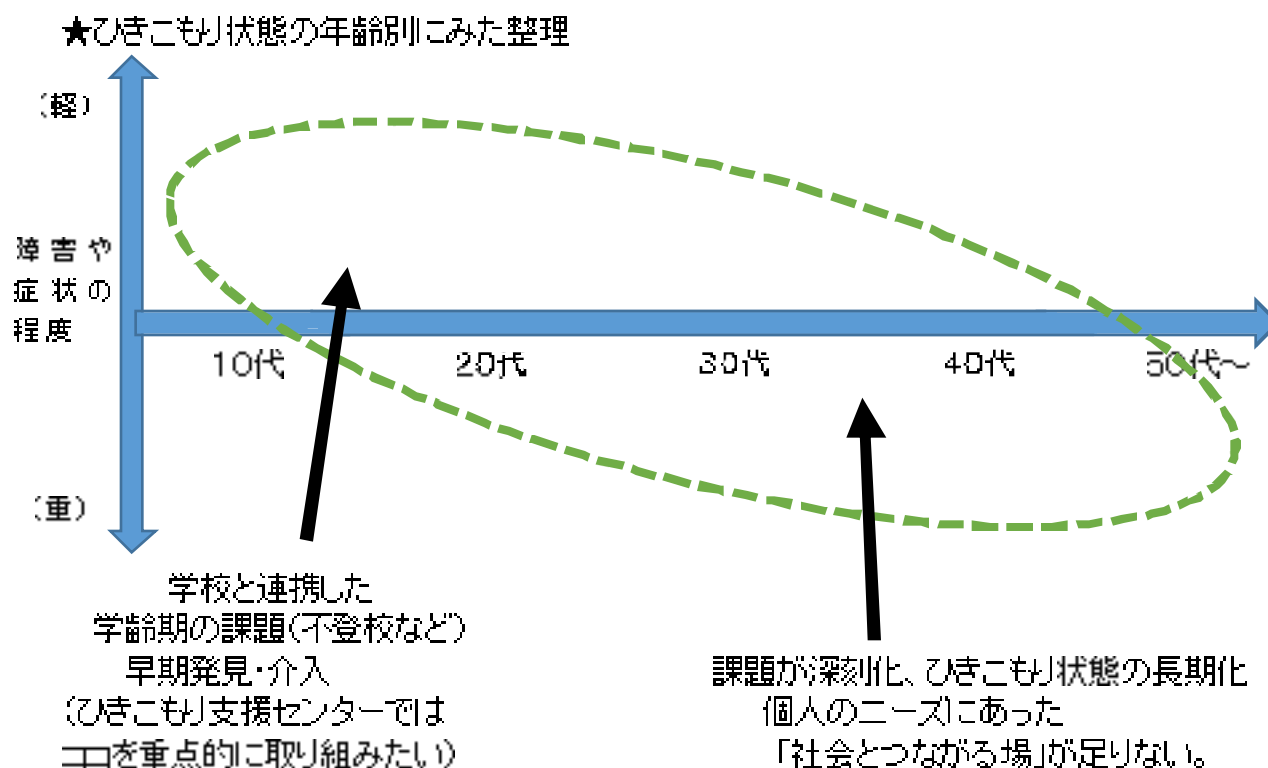
③ ひきこもりの人と家族の支援事業

① 制度にとらわれない訪問型支援

…一度はどこかにつながった人たちを放っておかない支援活動

② 本人、家族の居場所づくり

③ 支援にかかわる人材育成



訪問型支援を中心とした支援、家族の居場所づくり

甲賀モデル事業 実施状況

●概況

- ・ 湖南市若竹町の住宅街にある一軒家（9月からさわらび福祉会の新規生活訓練事業所「くれぱす」）を拠点に、専門相談員による訪問支援と、本人・家族の居場所づくりに取り組む。
- ・ 甲賀チーム（保健所、甲賀・湖南両市の社協、市職員、民生委員等）で、家族・本人の居場所づくりと、場を活用した他圏域との交流事業等の検討をすすめている。



↑2階は、事務所が1部屋、個室が2部屋、トイレは2階にも。



1階には広いリビングとキッチンも完備。家具は、ご近所の方が引っ越されるときにくださったものです。



↑緑センターの居場所で使える和室。名前はこれからアイデア出し。

甲賀モデル事業では・・・

社会(人)とのつながりがもちづらい方やひきこもりがちな暮らしをしている方・その家族に対して、現行の福祉サービスでは届けられない支援を届けることをめざします。

訪問型支援(アウトリーチ)

ひきこもりがちな生活をしている方や社会とのつながりがもちづらい方へ、再度、人との縁を紡ぎなおし、いきいきと地域で暮らすことを支援します。

〈活動内容〉

- ・定期訪問や同行支援により、人との関係づくりから始めます。
- ・特定の人との関係づくりから、サロンや他の活動にふれることをすすめていきます。

居場所づくり(サロン)

ふたたび人との関わりをはじめる場として自分のペースで過ごせる場として「楽しい」「わくわく」が待っている場としてそんなサロンをつくっていきます。

*週1回(土)から始めます。

家族交流・学習会

家族同士の交流の機会や、県内外で取り組まれている実践等を学びあう機会をもっていきます。また、当事者家族としての立場だけではなく、ご家族自身も「私」でいられる場づくりを考えています。

*随時開催

地域啓発

福祉関係機関(者)だけでなく、市民の方に関心をもっていただけるよう、学びあい、縁を結んでいける交流会、学習会などに取り組みます。また、活動をすすめながら、ピアサポート(当事者同士の支えあい活動)もすすめていきます。

制度だけで対応できない福祉課題解決のためのモデル事業

④ 生きづらさを抱える人の働く場づくり事業

- 生活困窮者自立支援制度での就労支援、働き・暮らし応援センター、若者サポートステーション等、相談支援機関の整備は進む
- 相談支援機関のヒアリングから見えてきた課題
 - ①「働きたい」、「役に立ちたい」とだれもが思っているが、就労まで距離のある人は多い。
 - ②制度の垣根を越えて、「就労まで距離のある人」が「働くこと」を経験できる場の確保や開発が求められている。

縁の取り組みの方向

①垣根のない小さな事業所づくり

企業の困りごと、地域の困りごと、地域産業の活性化を助ける小さな事業所づくりに取り組む・・・「様々な背景を持った人が働ける小さな事業所」

②縁センター会員による「垣根のない中間就労の場」の開拓

（賃金がいくらかでも出ること）

制度のはざまの困りごとに対する実践(モデル事業)

⑤ 医療ケアの必要な重度障害者の入浴支援事業

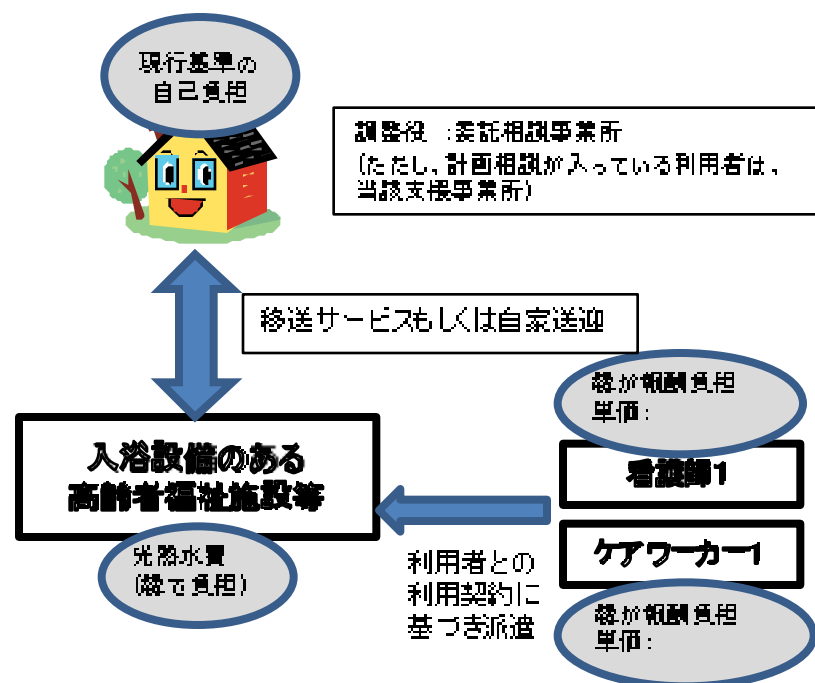
医療ケアを要する重度障害者の入浴についての実態

- ① 自宅での入浴が、居宅環境や介護負担の面から困難で、サービスを利用しても1週間に2回程度しか入浴できていない方がある。
- ② 生活介護等、日中活動の事業所で医療ケアを要する人が入浴できる場所は少ない。
- ③ 看護師は地域生活支援に欠かせないが、訪問看護による支援は自宅に限られる。

縁の入浴支援事業

会員法人、事業所の協力を得て、サービスの柔軟な運用による入浴支援のモデル事業を実施し、地域生活支援サービスの強化を提案

- ① 日中活動の場(生活介護事業所)で訪問入浴
- ② 自宅近くの高齢者施設等で介助入浴
→30の施設が協力登録



3. 福祉課題解決のための協働の土台づくり

「放っておけない」課題を共有することなくして協働はできない。子どもの貧困、児童養護施設の子どもたち、ひきこもりの人と家族、重度心身障害者の生活支援等、滋賀のなかにある福祉課題を知り、考える場から縁の実践は始まった。

①理事会

②企画会議、企画小委員会

③圏域での会員交流会

④縁塾

⑤気づきシートを活用した、制度のはざまの課題を見る力、多職種チームで相談する関係づくりの支援（県社会福祉士会との協働）

福祉圏域での会員交流会



同じ地域で「暮らしの支援」に関わる人たちが、分野、職種、立場を越えて集まる場をつくっています。企画役は、社協メンバーと各分野から出ている企画員です。まずは、ひたすら自己紹介、役割紹介でスタートしました。

2回目以降は、トータルサポートを必要とする人と家族について、テーマを絞って話を聴き、課題の共有をしています。そこから協働の実践の芽が出てくることを楽しみにしています。今は、「子どもの貧困」に焦点をあてています。



縁塾(多職種・多分野連携のチーム作り研修)



県内7つの福祉圏域ごとに縁の会員団体、施設等の職員を対象にチームづくりの研修会を開催しています。地元の事例で、互いの考え方(信念)や持ち味を知り合い、関係づくりをすすめるという「漢方薬」的研修会です。

「気づきシート」小委員会の活動

職場内や周辺
資源だけでは解
決できない課題

「気づきシート」

井戸端的な場から課題をキャッチし、
キャッチした課題を顕在化させる。
・「気づき」を言語化できる人
・「気づき」を記録化できる人

縁センター
「気づきシート」小委員会

「気づきシート」
フーキングチーム

「気づきシート」の情報の集約、管理、整理、分類を行う。

「気づき」の対応策をニュースレターでコメント

「気づきシート」の一般化・教材化

生の声として圏域に送っていく

研修活動の場（滋賀の縁塾）
→多職種連携の事例検討

①公開事例検討会

②事例の記録および多職種連携の
チームづくりのためのケース検討
の手法の学習会

生の声を解決する場

→各圏域で解決構築の場

※具体的な事例(課題)について、
小さな成功体験の積み重ねにより
解決構築を図る場

すでにある各地域のネットワークや圏
域会議を活用する。圏域ごとに社会
福祉士の世話人+市町社協が核と
なり、検討する事例のテーマによっ
て、スーパーバイザー役を調整し、生
の声を解決構築に向ける場をもつ。

参加者

縁塾参加者らが
リーダー役を担える人達に

研究者らによる
調査研究チーム

「発見」から「解決」までのしくみを検討、整理

I. 利用者及びその家族に対し、支援の難しさを感じた事例

介護や子育ての課題、虐待や生活困窮等を抱える利用者・当事者及びその家族に対し、「うちの施設(活動)だけで解決や状態の改善を図ることは難しいのだが、何とかできないだろうか」という事例や思いを、具体的に教えてください。

事例について該当する項目にチェックを入れて下さい。(複数可)

高齢 障がい 子育て 生活困窮 その他()

世帯構成(わかる範囲でご記入下さい。ジェノグラムも可)

事例の紹介

II. Iの解決策・解決像

上記Iの具体的事例に対して、「こうなればいいのに…」「こんな取組や制度があれば…」という思いや既に課題の解決や状態の改善にアプローチしている取組があれば、具体的に教えてください。

人の暮らしに関わる様々な職種、支援者の新たな出会い、結び目づくり

- 越境してみる
- そして、やってみる
- すると、できることに気づく、やるべきことが見えてくる

ひきこもり状態にある人のことは、高齢者分野のケアマネやケアワーカーもかなり気になっている

児童養護施設の子どものことは知らなかったけど、知ってみたい

高齢者施設だけど子どものこと考えてみたい

ひとりももれなく、
子どもが笑顔になる
おとなも笑顔になる
地域が笑顔になる

一人を大事にする、制度がないからとあきらめない
姿勢と実践。
全員参加型、公私協働のシステム。
新しい福祉文化の創造は、集まって、ハラゴシラエ
して、一緒にやってみることから。